

タムシバ

学名：*Magnolia salicifolia* Maximowicz 科名：モクレン科



タムシバは本州や四国、九州の特に日本海側の山地に分布する日本特産の落葉低木です。早春に咲く白い花には爽やかな芳香があることから、別名をニオイコブシと言います。葉は細長く裏側は白色を帯びており、噛むと甘みがあることからカムシバとも呼ばれ、タムシバと言う和名はこれが転じたものだと言われています。果実は袋果（たいか）と呼ばれる袋状の果実がたくさん集まった集合果で、熟すと裂けて赤い種子が姿を現します。

タムシバの類似植物にはコブシがあります。同じモクレン科の植物で、比較すると非常に似ていますが、樹高が約4〜8mのタムシバに対し、コブシは約20mと高く、花のすぐ下に緑色の葉が1枚あるのが特徴です。また、葉は先の幅が広く、裏は緑色です。

開花前の蕾を採取し、日干ししたものを「辛夷（シンイ）」と呼びます。辛夷には鼻粘膜の収れん作用や抗菌作用、抗アレルギー作用などがあり、辛夷清肺湯などの漢方薬に配合され、鼻づまりや蓄膿症に用いられます。

タムシバの花



生薬名	辛夷（シンイ） 局方生薬
薬用部位	花蕾
薬効	鼻粘膜の収れん、抗菌、抗ウイルス、抗アレルギー作用など
用途	鼻炎、鼻づまり、蓄膿症の治療を目的とした漢方の処方に配合 辛夷清肺湯（シンイセイハイトウ）、 葛根湯加川芎辛夷（カクコントウカセンキュウシンイ）など



ヤマブキ

学名：*Kerria japonica* DC. 科名：バラ科



北海道から九州の低山などに分布する落葉低木のヤマブキは、春になると鮮やかな黄色い花を咲かせます。山吹色と言う色名はこの花の色に由来し、平安時代から用いられ、現代でも色鉛筆や絵の具などの色の一つとなっています。ヤマブキの花の色は黄金色（こがねいろ）とも言われ、江戸時代には賄賂の小判を俗称で山吹と呼ばれていました。

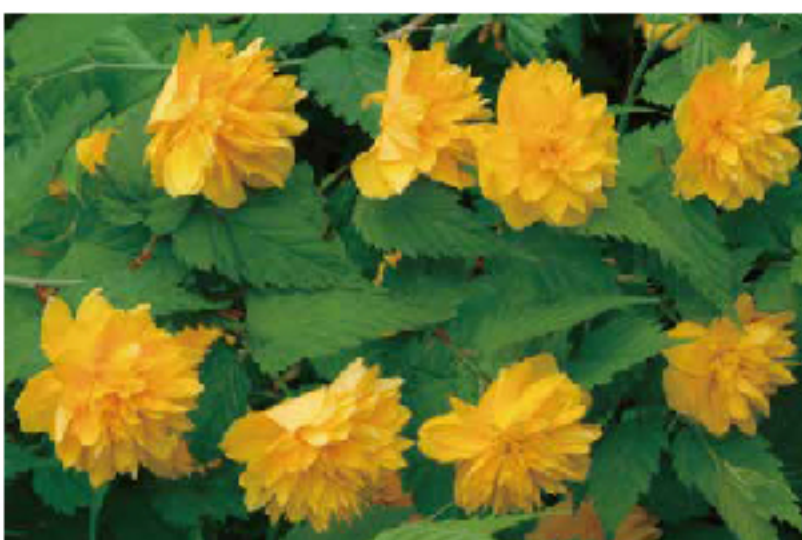
ヤマブキは古くから日本人に愛されている花で、万葉集でも和歌が詠まれています。しなやかな枝が春風に吹かれて振り動く様子から「山振」の字があてられ、これが後に山吹となったそうです。

ヤマブキには花弁が5枚の一重咲きと、八重咲きのヤエヤマブキがあります。

その華やかさから庭木として人気のあるヤエヤマブキは、雄しべが花弁化し、雌しべが退化しているため、実がつかないのが特徴です。

中国では「棣棠花（テイトウカ）」と呼ばれ、咳や消化不良、むくみなどに用いられます。日本では乾燥した花を止血薬とし、民間で使用されてきました。

ヤエヤマブキ *Kerria japonica* DC. f. *plena* C. K. Schneid.



生薬名 棣棠花（テイトウカ）

薬用部位 花

薬効 鎮咳去痰、利尿、解毒、止血作用など

用途 咳、消化不良、むくみなどに用いられた。民間薬として、止血に用いられた。



シヤクナゲ

学名：*Rhododendron × hybridum* 科名：ツツジ科



シヤクナゲは、アジアやヨーロッパ、北アメリカに広く分布する常緑低木です。約300種の野生種が分布していましたが、品種改良が盛んに行われ、これまでに5千種を超える園芸品種が作り出されてきました。本来は高山の涼しい環境で生育する植物でしたが、品種改良によって暑さに強い品種も誕生しました。白色から赤色、黄色など、花の色が豊富なシヤクナゲは、大きく豪華な花を咲かせることから、「花木の王様」とも呼ばれています。

昭和6年に国の天然記念物に指定された滋賀県の鎌掛（かがけ）谷ホンシヤクナゲ群落は、シヤクナゲの名所の一つです。ホンシヤクナゲが標高350m前後にわたる約4万m²の谷間の斜面を覆って群生し、4月下旬〜5月上旬頃に谷間を淡紅色に染め、とても美しいそうです。

シヤクナゲの葉は「石楠葉（セキナンヨウ）」と呼ばれ、日本独自の民間療法で利尿薬として用いられてきましたが、テルペノイドの一種である「グラヤノトキシシン」と呼ばれる成分が含まれ、嘔吐や下痢、けいれんなどの中毒を引き起こすため、一般に用いられません。

生薬名	石楠葉（セキナンヨウ）
薬用部位	葉
薬効	利尿、強壯作用
用途	民間薬として、利尿に用いられた。

オドリコソウ

学名 : *Lamium album* L. var. *barbatum* (Siebold et Zucc.) Franch. et Savat. 科名 : シソ科



日本では北海道から九州、海外では東アジアの温帯に分布しているオドリコソウは、春から初夏の間、山野の道端の半日陰を好んで群生します。草丈30〜50cmの多年草で、白色から淡紅色の、まるで唇のような形をした花を数個輪生するのが特徴です。この花のつき方が、笠をかぶって踊る踊り子に似ていることから、オドリコソウと名付けられました。また、花には蜜があり、一つ摘んで吸うと甘みを感じます。

オドリコソウの仲間には、ヒメオドリコソウやホトケノザなどがあります。ヒメオドリコソウはヨーロッパ原産の外来種で、オドリコソウより小さいです。ホトケノザは、春の七草の一つである「仏の座」とは異なり食用とはならないため、注意する必要があります。

生薬名は「野芝麻（ヤシマ）」で、月経不順や打撲、腫れ物などに用います。血行を良くする作用があると言われ、古くから妊婦の保健薬とされてきたそうです。昔から全草を薬湯料として用いると腰痛に効果があるとされています。また、若芽は食用になり、あえ物や天ぷらにして美味しくいただけるそうです。

生薬名	野芝麻（ヤシマ）
薬用部位	根
薬効	血行促進、消炎、血液浄化、発汗作用など
用途	民間薬として、月経不順、腰痛、打撲、腫れ物などに用いられた。